

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/

所長の諏訪山だより

皇位継承 — いま議論すべきことは何か

1月12日、安定的な皇位継承のあり方を議論してきた有識者会議の最終報告書が衆参両院議長に岸田首相から提出された。有識者会議は、この報告書で①女性皇族が結婚後も皇族の身分を保持すること、②旧宮家の男系男子が養子として皇族復帰すること、この2案の検討を求めている。ただし、結婚した女性皇族が皇族に留まっても、その配偶者と子どもは皇族とはしないことが前提とされているようで、男系男子での皇位継承には手を付けないのだろう。

第2案の旧宮家とは、1947年に廃止された11宮家であるが、これらは北朝3代の崇光天皇(1338～98年)の第1皇子・崇仁親王が創始した伏見宮とその分家なので、旧11宮家は600年も前に天皇家から分かれた家系となる。伏見宮系の宮家以外で戦前に立てられた宮家は、昭和天皇の弟にあたる秩父宮、高松宮、三笠宮があり、戦後は、現上皇の弟の常陸宮、現天皇の弟の秋篠宮、三笠宮の次三男の桂宮と高円宮なので、旧11宮家の天皇家との血縁的隔たりだけがひととき目立っている。旧11宮家のひとつである竹田宮の初代当主の曾孫で、保守派の評論家としてテレビなどで活躍している竹田恒泰氏は明治天皇の玄孫といわれるが(初代当主が明治天皇の6女と結婚した)、竹田氏が非常に重視する男系で数えると、現天皇との間は38親等も離れていることになる。

幕末の宮家は、伏見宮、桂宮(107代後陽成天皇の弟を祖とし、戦後に三笠宮の次男が立てた桂宮とは無関係)、有栖川宮(108代後水尾天皇の弟を祖とする)、閑院宮(114代中御門天皇の弟を祖とする)の4宮家であったが、桂宮は1881年に、有栖川宮は1913年に嗣子(あとつぎ)がなく廃絶した。また、閑院宮は5代当主に嗣子がいなかったので、伏見宮20代当主・邦家の16男が6代当主となり、伏見宮の家系となった。そして、幕府や明治政府などの思惑が交錯し、伏見宮19代当主・貞敬と邦家の王子で僧侶になっていた人たちが還俗させられ、1863年から68年の間に中川宮(のちに久邇宮に改称)、山階宮、小松宮、華頂宮、梨本宮、北白川宮を立てた。さらに、宮家の次男以下は臣籍降下(臣民の身分になることで、これにより戸籍が作成される)して華族とする規定が皇室典範に入れられる1907年までの間に、以上の宮家の次三男たちが賀陽宮、東伏見宮、竹田宮、朝香宮、東久邇宮を立て、伏見宮系の宮家が増えていった。

なぜ旧11宮家すべてが伏見宮系なのかの説明が長くなり、本題に入ることができなかった。本題は次号で。

所長 石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント (その10)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円+税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

▶『立場を自覚していない部落の子どもをどう支えるか』

／坂本研二（兵庫県内小学校教員、兵庫県教職員組合・人権教育推進専門委員）

私は、小学校教員として現在5校め、そのすべてが校区に部落のある学校です。これまで、「立場の自覚」について、保護者のみなさんと、幾度となく話し合ってきました。

ある保護者は、「先生、同和教育をそんなにがんばらんといてよ」と言いつつ、「でも、しっかり教えとかなあかんし……、大切なことやし……」とわたしにではなく、わが子の将来を案じて自問自答し、つぶやいていました。それを間近で聞いたことを覚えています。

いうまでもなく、「そんなにがんばらんといてよ」は本心ではありません。部落問題に向き合い、子どもや保護者に寄り添ってこそ、その本心に近づくことができるはずです。

解放学級の閉鎖、学校の同和教育の衰退により、「立場の自覚」や「部落問題を学校でどう教えるのか」について保護者・地域と話し合う機会、つまりは地域とのつながりが切れてしまった学校が多いように聞きます。

同和教育に取り組むうえで大切な、保護者・地域との連携、そしてその願いや思いを知ることができていないのです。

このような状況で、「部落の子どもを支える」には、まず、学校が校区の部落を、担任がそこに住む子どもを、被差別の当事者として、認識することです。そして、担任をした際、家庭訪問などの機会に保護者と向き合うことです。差別をなくしたいという思いや、同和教育に取り組む確かな意志があれば、保護者の願いや思いに近づくことができるはずです。

これまで、「差別に出合わないのなら、知らせたくはない」「機会がきたら話すつもりでいる」などためらいの声を聞いてきました。

そのうえで、「立場を自覚していない部落の子どもをどう支える」のか。

「差別に出合ってからでは、遅いですよね」「（立場の自覚をしていなくても）いま、できることをいっしょに考えませんか」と話し合ってきました。次のように。

・何でも話し合える（親子）関係を築くことって大切ですよ。つらいことがあったときこそ、それは大切ですよ。

・もちろん、わたしたち（教員）も、何でも打ち明けてくれる存在になりたいと思っています。

・そして何より、仲間とつながる力をつけるような取り組みをしていきましょう。

これらは、部落の子どもたちだけに必要なものではありません。どの子どもにも必要なものです。それを部落の子どもたちが、確実に身につけられるようにしていくことが大切です。一方、この視点で学級づくりをすすめ、どの子どもにも身につけられるようにすることが、部落の子どもにも大切なのです。（小学校 同和教育を核にした学級づくり」64ページ参照）

さらに部落問題をめぐる現状から、次のような取り組みを起こしたいと考えています。

地域とのつながりが弱くなったいま、まず、その再構築を図ることが一つです。

また、地域と切り離されている部落の子ども・保護者もいます。担任したことなど何らかのつながりを生かし、個として・有志として、「部落の子ども・保護者に寄り添う」ネットワークづくりが考えられます。

今後、ぜひ取り組みたいです。



『CHOICE 自分で選びとるための「性」の知識』

シオリーヌ(大貫詩織)著、イーストプレス、2020年12月、1430円(税込)

日本の性教育は、他の先進国に比べて最も遅れていると言われてい、らしい。国際的な性教育の指針となっている「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」(ユネスコ発行)では、レベル1(5~8歳)で妊娠の仕組みを、レベル2(9~12歳)で性行為や避妊方法について教えることを推奨しているのだという。

しかし、日本では……。 「受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする」という“謎”の学習指導要領(中学1年の保健体育)があり、性交や避妊方法については触れられない。 いったい、子どもたちはどこで学べというのだろう。

それでも一方で、十数年前には数えるほどしかなかった性教育に関する本は、この数年ですいぶん増えてきた。本書もその1冊だ。

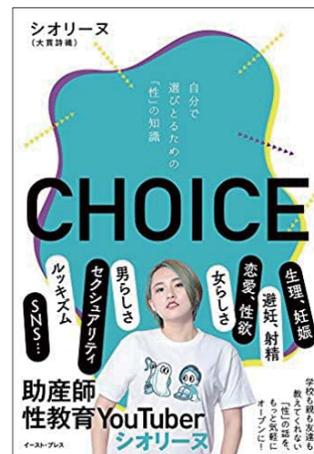
著者は助産師で、性教育 YouTuber としてインターネットで発信したり、学校や地域で講演したりしながら、性と生殖に関する知識を広める活動をおこなっている。

モットーは、「性の話を、もっと気軽にオープンに」

登録者数が現在16万を超えるYouTubeチャンネルは2019年2月にスタート。性に関する基礎知識をはじめ、あらゆることが1本10分前後の動画でコンパクトにまとめられている。

若い世代、そして子どもたちと接するおとなに「せめてコレだけは知っていてほしい!」という、性の基礎知識を詰め込んだ」本書では、生理や射精など性にまつわる身体の仕組み、妊娠の仕組みや避妊、性感染症の他、性的同意、デートDVなどパートナーシップに関すること、ルッキズム(外見至上主義)、SNSの付き合い、性の多様性やジェンダーに基づく差別のことなど、38のトピックがイラスト付きでわかりやすく書かれている。ほとんどの項目に著者自身のYouTube動画のQRコードが付けられているので、スマホで関連した動画を見ることもできる。

巻末には相談窓口の一覧もあり、性感染症、セクシュアリティ、いじめ、いきづらさ、妊娠・出産・中絶、思春期の悩み、性暴力・デートDVなどについての相談先が、QRコード付きで紹介されているのも役に立つ。



著者お勧めの性教育の絵本



『あっ! そうなんだ! 性と生— 幼児・小学生そしておとなへ』 浅井春夫他編著、エイデル研究所、2014年3月、2,200円(税込)

本書全体を流れているのは、タイトルの通り「人生を自分で選びとろう」というメッセージだ。助産師として働いた後に勤めた精神科児童思春期病棟で、「この社会が子どもたちにとっていかに困難の多い、過酷な場所であるかを思い知」った著者が、「あの子たちがどうか健やかに安心して生きていけるように。自分の人生を自分の意思で選びとっていけるように」「お守りになる一冊を」という願いを込めて書いた本でもある。

一人でも多くの子どもたちに届いてほしい。まずは学校図書館に1冊を。それから、手に取れるような場所にもさりげなく。

同時に、そんな社会をつくるのは「私たち」。「今こそ、大人が価値観をアップデートしなくてはならない」という著者の言葉通り、私たちも学びたい。(H)

《第4回人権セミナー 延期のお知らせ》

2022年2月5日（土）開催予定の第4回人権セミナー『同和対策事業から平等を考える』は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、次年度に延期することになりました。開催の日時が決定しましたら、ホームページ等でお知らせいたします。

《第5回人権セミナー》海を渡った被差別部落民－20世紀初頭アメリカ出移民の歴史経験

- ◇講師：関口寛さん（四国大学准教授）
- ◇日時：2022年3月5日（土）14：00～16：00
- ◇参加資料代：一般：1000円、正会員（個人会員）：無料、定期購読（個人）・学生・賛助会員：500円
- ◇開催方法：①会場参加：兵庫県立のじぎく会館201号室（定員50人）
②ZOOM配信（定員90人）

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催方法等を変更する場合があります。決まり次第ホームページ等でお知らせします。

2019年度に行なった兵庫県内自治体の同和行政に関するアンケート調査報告書（詳細結果編）が完成しました！

『ひょうご部落解放』177号に掲載した「『人権政策マップ2019』兵庫県内自治体の同和行政に関するアンケート調査」について、調査結果を幅広くご活用いただくため、詳細結果をまとめました。ご希望の方は研究所までお申し込みください。



書名：『人権政策マップ2019』兵庫県内自治体の同和行政に関するアンケート調査報告書（詳細結果編）

発行：2021年12月25日

定価：990円（900円＋税） 送料：120円／1冊

事務局から

- 民間業者でPCR検査を2回受けました。初回時に会員登録をしたので、2回目は手続きが簡単でとっても便利！3度目も無症状なら同じ業者で受けたいと思いますが、その必要がないことを祈ります（ka）
- 仕事は、いろいろな人の協力があってこそ成り立っている。そのことを改めて思い、感謝しつつ、自分を見つめなおす今日この頃。（K）
- 「「年取ったら〇〇できなくなる」とよく聞か、ポジティブなことはないのか」というようなツイートを見た。残り少ない人生、気持ちよく過ごせる人や事を大事にしたいと、取捨選択がしやすくなります。きっと（H）
- 給湯器が不調のため、近くの銭湯に頻繁に通っています。魔の2歳児にもおばあちゃんたちは優しいし、番台のおばあちゃんは「よく来たね」とお菓子をくれます。子育てにちょっと疲れた時は銭湯が一番です（笑）（ひ）